

## 第3学年4組 技術・家庭科 学習指導案

指導者 江崎 美由紀

### 1 単元名 「保育と環境」

### 2 単元目標

- 幼児のためのよりよい家庭環境や社会環境について課題意識をもって学習に取り組み、自己の考えをもつことができるようになる。 (関心・意欲・態度)
- 社会の一員として、幼児の成長を支えるために自分がすべきことを明らかにし、自己の家庭生活や社会生活に生かそうとする。 (創意工夫)
- 幼児の健全な成長を支える家庭環境や社会環境について、まとめることができるようになる。 (技能)
- 保育の必要性、幼児をよりよく育むための家族の基本的な役割、幼児のための社会施設・制度・法律の種類がわかるようになる。 (知識・理解)

### 3 主題設定の理由

現在の幼児を取り巻く環境に目を向けると、保護者による虐待や中学生が幼い命を殺める事件など、心痛む新聞記事やニュース報道などを目にする機会が多く、生徒たちもその事実を知らざるを得ないという現状にある。

そこで、生徒たちに、幼い命を大切にすることや幼児の健全な成長を支えることについて自己の課題として捉えさせ、社会の一員としての態度や行動について深く考えさせる学習を設定する必要があると考えた。また、中学生のこの時期に、幼児が育つよりよい環境づくりについて男女で共に学び合うことを通して、役割的な性差意識の解消につなげていきたいという将来的な展望をもった。

そのために、本時では、まず、導入において、「総合的な学習の時間」に訪問した幼稚園での交流体験をデジタルカメラの映像を用いて想起させることで、自分たちの周囲にたくさんの幼児の存在があることを再認識させるとともに、課題の意識化を図る。次に、幼児の成長を支える一人として大切にすべきことを小集団でCBS法により整理する活動を設定する。この小集団活動は、それぞれの考えが記入された付箋紙を分類の視点に沿って張り分けるものであり、生徒一人一人が主体的に学習を展開しながら課題解決の手がかりをつかむことを期待し設定した手だてである。活動の活発さのバランスを考慮してグルーピングした男女混合の話し合い班で活動させることで、他の生徒の多様な考えに触れながら自己の考えを広げ深める場となり得るようにする。そして、課題解決の場面での、自己の考えを意欲的に表現し、進んでその解決を図る生徒の姿につなげていく。ここでは、幼児の成長を支える一人としての今後の在り方をイメージさせることを通して、自己の生活に関わる課題であるという意識を高めさせ、創意工夫しながら解決にあたることができるようにする。最後に、幼児の成長を温かく支えようとする実践への意欲化を図るために幼児をもつ参観者の先生の話をお聴き活動を設定し、本時の学習をまとめる。

### 4 単元計画

次時	ね ら い	学 習 活 動 ・ 内 容	配時
一 5	○ 保育学習の必要性について考えさせ、保育の必要性や幼児の成長と環境の関わりについて理解させる。	○ 新聞記事をもとに保育学習の必要性を考え、学習課題を設定する。 ○ 「狼に育てられた子」「現代の狼少女ジーニー」などの事例をもとに、保育の必要性や幼児の成長と環境の関わりについて考える。	1 4
二 3	○ 幼児の健全な成長を支える家庭環境や社会環境について理解させ、幼児の成長を支える一人としての望ましい在り方について自己の考えをもつことができるようにする。	○ 自己の幼児期を振り返りながら、幼児の健全な成長を支える家庭環境や社会環境について考える。 ○ 幼児の成長を支える上で大切にすべき態度や具体的な行動をCBS法で整理し、幼児の成長を支える一人としての自己の在り方を考える。	2 1 (本時)

### 5 授業仮説

- 幼児の成長を支える一人としての望ましい在り方を考える過程において、幼児の成長を支える上で大切にすべき態度や具体的な行動などをCBS法で整理する小集団活動を設定すれば、生徒は、自己の考えを広げ深めながら、課題の解決に向けて主体的に学習活動を展開するであろう。

### 6 本時の指導計画

- (1) 期 日 平成17年6月17日(金) 第5校時 於：第3学年4組教室
- (2) 主 眼 ○ 幼児の成長を支える上で大切にすべき態度や具体的な行動をCBS法で整理する活動を通して、幼児の成長を支える一人としての望ましい在り方について自己の考えをもつことができるようにする。
- (3) 準 備 ・学習プリント ・デジタルカメラ ・付箋紙 ・模造紙 ・マジック ・マグネット

(4)展 開

学 習 活 動 ・ 内 容	手だて及び指導上の留意点	評 価	形態	配時
<p>1 「総合的な学習の時間」における幼児との交流体験を想起し、本時の学習内容を確認する。</p> <p>○ 幼児との交流体験の感想を発表する。</p> <p>○ 本時は、幼児の成長を支える一人としての在り方について考えることを確認する。</p>	<p>○ デジタルカメラの映像を用いることで幼児との交流体験を想起しやすくする。</p> <p>○ 数名の生徒の感想をもとに本時の学習への方向付けを行い、本時のめあてを提示する。</p>		一斉	5分
<p>めあて 幼児の幸せを支える一人として大切にすべきことを考えよう。</p>				
<p>2 幼児の成長を支える一人として大切にすべきことを考える。</p> <p>(1) 幼児の成長を支える上で大切にすべきことについて考え、付箋紙に記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児に対する気持ちや態度</li> <li>・ 幼児に対する具体的行動</li> <li>・ 幼児に対する配慮事項など</li> </ul> <p>(2) それぞれの考えを小集団で出し合い、それらの性質や特徴を考慮しながら付箋紙を分類する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 土台となって支える姿勢に関わるもの</li> <li>・ 身近な幼児に対する行動に関わるもの</li> <li>・ 幼児全体に対する行動に関わるもの</li> <li>・ その他</li> </ul> <p>(3) 活動の成果を小集団ごとに発表する。</p>	<p>○ 次の小集団活動の時間を十分に確保するために、事前に課題として自己の考えをまとめさせておく。</p> <p>○ 多様な考えや柔軟な考えを引き出すことができるように、中間指導を通してアドバイスをを行う。</p> <p>○ 幼児の成長を植物の成長に例え、「土」「水」「日光」「その他」の視点で付箋紙を分類させることで、一つ一つの考えをじっくりと見つめることができるようにする。</p> <p>○ 一つ一つの考えを大切にしながらCBS法でもれなく分類するように促し、受容的な雰囲気の中で小集団活動が展開するように支援する。</p> <p>○ 代表の生徒による発表を通して他の小集団の考えに触れ、自己の考えを広げ深めさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児の成長を支える上で大切にすべきことについて自己の考えをもち、付箋紙に記入できているか。(観察、模造紙、自己評価表)</li> <li>・ 小集団の中で自己の考えを発表できているか。(観察、自己評価表)</li> <li>・ 小集団で話し合いながら協力して付箋紙を分類できているか。(観察、模造紙、自己評価表)</li> </ul>	個人  小集団  学級集団	5分  15分  10分
<p>3 幼児の成長を支える一人としての望ましい在り方について考える。</p> <p>(1) 望ましい在り方について自己の考えをまとめ、学習プリントに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児に対してどのような存在でありたいか。</li> <li>・ 幼児とどのように関わっていきたいか。</li> </ul> <p>(2) 望ましい在り方について考えや思いを発表し、意見交換を行う。</p>	<p>○ 幼児に対する今後の在り方に目を向けさせることで、自己の生活に関わることであるという意識と、幼児の成長を温かく支えようとする実践への意欲を高めさせることができるようにする。</p> <p>○ ただ単に発表したり、聴いたりするだけでなく、他の生徒の発表に対して自己の考えを述べさせることによって、学習に深まりをもたせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児の成長を支える一人としての望ましい在り方について自己の課題として捉え、その解決に向けて、今後の生活を意識しながら工夫した考えを表現できているか。(観察、学習プリント、自己評価表)</li> </ul>	個人  学級集団	5分  5分
<p>4 教師の話の聴き、本時の学習のまとめを行う。</p>	<p>○ 参観者の先生に幼児をもつ親の立場で「中学生に期待すること」を話してもらい、本時の学習活動や学習内容を温めさせる。</p>		一斉	5分